

県番号 39 番

高知県

不祥事未然防止のため
のJA指導体制の
構築について

全国共済農業協同組合
連合会高知県本部

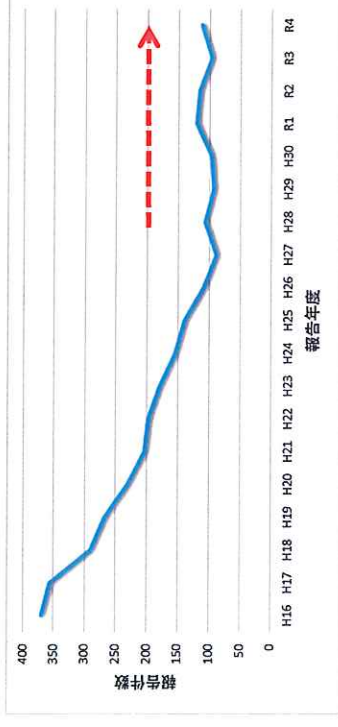
福原 貴子

ふくはら たかこ

不祥事未然防止のための J A 指導体制の構築について

J A 共済連高知
福原 貴子

J Aの不祥事の報告件数 (平成16年～令和4年)



平成28年以降は
年に約100件の発生で
なかなか減少せず

↑ **「不祥事対応強化3か年の取り組み」** J A 全中 (令和4～6年)

2

J Aからあげられた不祥事対応への課題

1. J A 職員数の減少の中での検証体制の確保
2. 不祥事未然防止・早期発見を困難にする職場風土の改善
3. 渉外担当者による口座開設・集金業務に対するけん制
4. 高齢者をターゲットにした不祥事に対するけん制

↑ **「1. J A 職員数の減少」と「2. 職場風土」
が早期に解決しにくい課題**

3

高知県の現在の J A 指導体制

- ▶ 事業別の縦割りによる棲み分け (J A ・連合会ともに)
- ▶ 広域合併により連合会の目が行き届きにくくなった
- ▶ 本所に指導部署がない、専任の指導担当者がいない

↑ **万全の J A 指導体制とはいえない**

職員数の減少により J A 内の体制の強化は難しい

4

不祥事未然防止のために必要な「検証力」と「指導力」の強化

検証力の強化

現場での「予防的な措置」＝不祥事の防止

⇒処理前の手順の追加、必要書類の追加、知識の習得

支所の負担が増え、現場がまわらない！

指導力の強化

本所による「事後的な措置」＝不祥事の抑制

⇒処理後の点検、調査、指導

本所の指導体制が万全ではない！

支所は既にキャパオーバー…

本所の「指導力」を重点的に強化

5

改革案

不祥事未然防止のための「指導力の強化」策として…

1 事業横断的な J A の実務検証

2 連合会のノウハウと全国規模の情報を生かした J A 指導



①②を実施する為の「J A 指導体制」として…

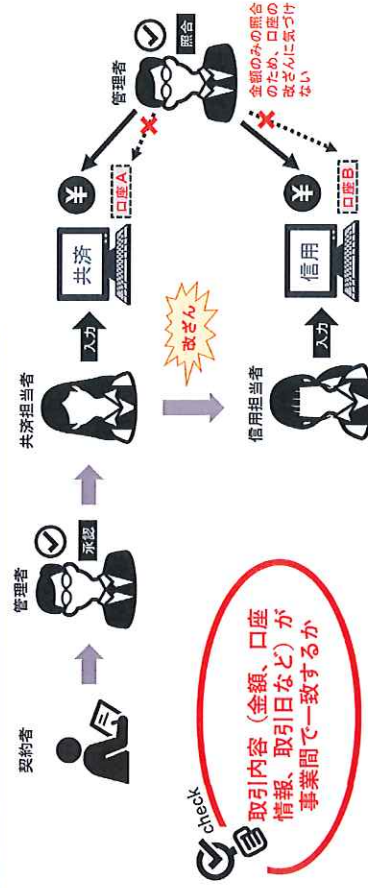
3 J A グループ高知の共通機構の改革

6

1 事業横断的な J A の実務検証

(1) 金銭の取引が発生した場合の、信用事業と各事業の処理内容の照合

(例) 満期共済金請求の不正処理のイメージ



7

1 事業横断的な J A の実務検証

(2) 各事業の取引内容の整合性の確認



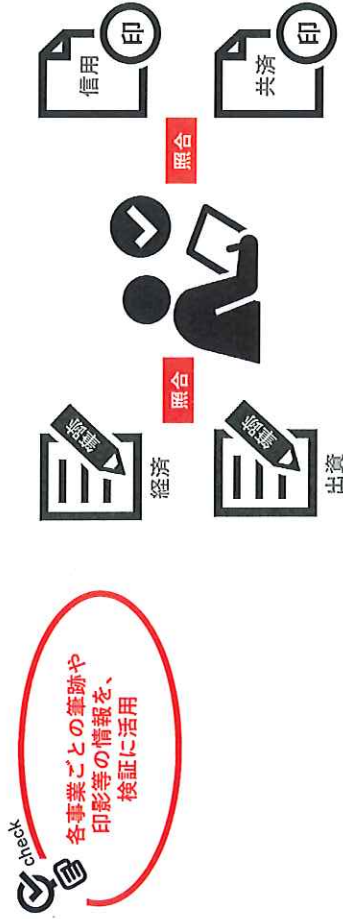
世帯情報、経済状況、その他の情報が事業間で一致するか



8

1 事業横断的な J A の実務検証

(3) 各事業の情報を集約することによる検証精度の向上



2 連合会のノウハウと全国規模の情報を生かした J A 指導

(1) 連合会の巡回指導のノウハウや専門知識の活用

⇒ 何からすればいいか、どんな準備が必要か、着眼点はどこか等、より効果的で効率の良い J A 指導を実施できる。

(2) 連合会が持っている不祥事の事例や傾向、情報分析の活用

⇒ 他県や他事業ではどのような不祥事が発生しているのか、高知県内に同じリスクはないか、先手を打つにはどうするべきか等、より効果的な不祥事未然防止措置を実施できる。

3 J A グループ高知の共通機構の改革

「①事業横断的な J A の実務検証」

⇒ J A 内の改革は難しい！

- ・ 人員不足
- ・ 事業縦割りの「壁」
- ・ 複数事業の検証ができる人材の育成

「②連合会のノウハウと

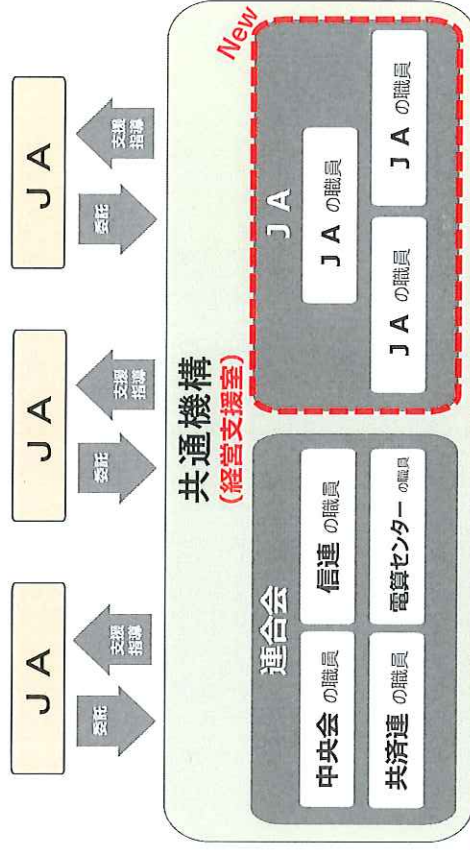
全国規模の情報を生かした J A 指導」

⇒ 連合会同士の連携が弱い！



①②両方を実行できる体制をつくる！

J A グループ高知の「共通機構」の改革



JA・連合会のJA指導の共同実施体制

ポイント①

JAから「経営支援室」へ指導業務を外部委託

ポイント②

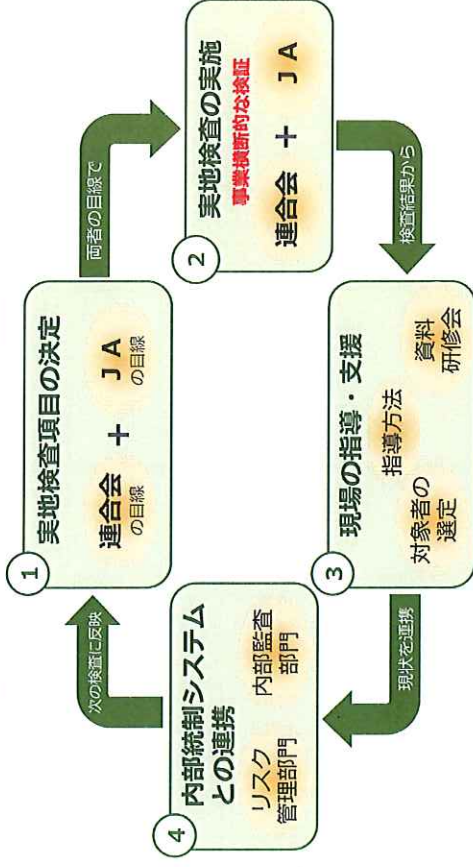
「経営支援室」に指導業務を行うJA職員を受け入れ

ポイント③

JAと連合会で指導業務を共同実施

13

経営支援室で実施するJA指導業務



14

経営支援室による「事業横断的な実務検証」のイメージ

(例) 共済事業の実地検査に信用担当者が同行し、信用・共済事業の両面から検証する。



15

おわりに



16